

嚶鳴同窓会報

編集発行所
990 山形市鉄砲町
1丁目15-64
山形県立山形西高校
嚶鳴同窓会
電話 41-3504
振替山形 995

祝賀の宴

——ご協力に感謝——

会長 高橋 政

会員皆様の御協力、御声援に
応えまして、この会報も四号を発
行することになりました。特にこ
の度は母校創立八十周年記念号
特集として、色々御報告を申し上
げまして、尚今後の歩みへのよす
がと致したいと希つてるところで
ございます。

記念式典、祝賀会、それに続く
同窓会総会には、多数の会員にご
参加頂きまして、誠に有難うござ
いました。八十年の長い歴史と伝
統を表わすものとして、うれしく
感激いたしました。改めて厚く御
礼申し上げます。新装とこのいま
した母校に集う私達は、輝かしい
西高の発展を喜び合い近親
感をもつて心から、この記念の催
しを寿ぐことが出来ました。

それにつけても、元会長の
仲野先生、前会長の谷口先生をは
じめ、多くの先輩会員方々のご尽
お力添えのほどよろしくお願
い申し上げます。



草も樹も根付いた校舎—正門前から玄関へ—

今年創立八十周年の記念すべ
き年にあたり、去る六月二十五日
その式典を挙げました。四百五十
名の多数の同窓生の皆様のご臨席
をいただき、伝統ある歴史の式典
にふさわしい、盛大な式典となり
ましたことには、誠に有難うござ
います。同日、同窓会に
続いて催された記念演奏会には、
同窓生、今井優子さんのソプラノ
独唱、佐藤陽子さんの歌曲演奏を
いただき、なによりやまないな
で、生徒の合唱演奏とともに八十
周年を祝うよい行事となりました。
当日、特に役員の方々にはいろ
いろの係を担当され、お骨折りを
いただきましたことは恐縮のいた
りに存じております。「記念誌」の
刊行にあたっては高橋会長さんは
じめ大ぜいの皆様から、なつかし
い思い出一杯の寄稿をいただき
お蔭様で内容の充実した記念誌に
できあがりしました。八十周年の記

ご高配に感謝

学校長 笠原 二郎



式典をお祝いして

嚶鳴同窓生の皆様、ごきげんい
かがですか。皆様から常日頃母校
のため何かとあたたかいご配慮を
いただいております。心から感謝申して
おります。

昭和五十三年度

同窓会総会報告

昭和三十三年、三十四年に卒業
した私達は、これまで一度も総会に
出席したことがない方が大部分で
した。本年度の当番学年をおおせ
つかった時には、何かお手をつけ
たらよいか、暗中模索そのもの
でした。創立八十周年記念式典に
続き同窓会であるという特別な年
に当たり当番学年一同は数を揃え
て頑張りました。

準備早くも五月二十一日(日)
には前学年当番の方々と引き継ぎ
の会を持ちました。この時初めて
十年毎に行なうアンケート調査の
年になつてゐることを知りました。
数回の相談の後、伴せてアンケー
ト委員会を発足致しました。前回
七十周年の時の当番であられた方
方の御苦勞が、いたる所に感じられ
ました。ボスター関係は長岡玲子
さん(S36卒)にお願いしました。
母校の伝統と優雅さを基調とし、長
岡さんらしい繊細な色彩感覚で作
られた作品は、今までとちがった
出来栄でした。又、プログラム
作成や切符売捌き等、様々な仕事
は、学校側の創立八十周年記念行
事と連絡を密に取り進めま
した。総会前日には、在山形の当番
学年のほとんどが母校に集合し、
各々の役割の再検討、確認をし合
いました。

当日、創立八十周年記念式典—
昭和五十三年六月二十五日(日)晴
朝九時半より母校体育館に於て厳
粛に行なわれました。私共は朝八
時には参集し仕事を始めました。
滞りなく式典
行事も終り、記
念演奏会では、
運良く堀田中
今井優子さん
(S33卒)の独唱
と、佐藤陽子さ
ん(S36卒)高橋
比呂子さん(S
49卒)の歌曲「新
潮」の演奏があ
りました。

創立八十周年
記念祝賀会—会
場を第二体育館
に移し、各方面
から、多数の来
賓の方々をお迎
えし、六百人に
迫る盛大な祝賀
会でした。乾杯の後、荒井光子さ
ん(S35卒)の日本舞踊をはじめ、
数多くの方々のかくし芸が披露さ
れ、伝統の西高「にふさわしい多
才振りました。万歳三唱で幕をと
じました。

創立八十周年記念式典に参列して

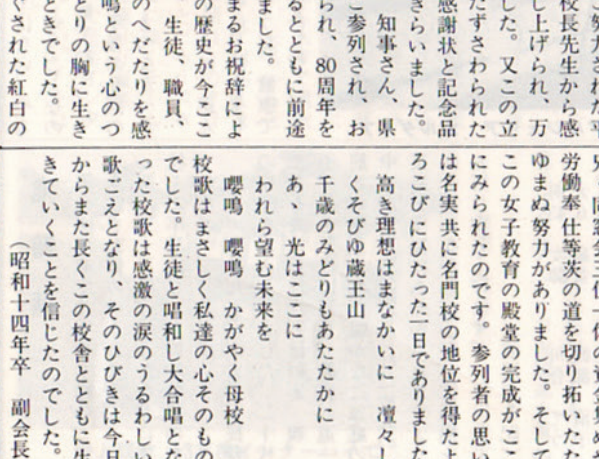
相沢 栄

今日の晴れの祝日を迎えるため
一致団結して努力した生徒・職員
後援会・PTA・同窓会と学校を
取りまく沢山の方々、新装成つ
た白亜の三層塔屋にかげられた
リリーフを迎きみつつ、会場につ
めかけました。

昭和五十三年六月二十五日(日)
迎く明治三十一年に設立され創立
八十周年という輝かしい歴史を寿
ぐ式典が母校生徒合唱の美しい
調べによつて開幕されたのです。

会場は晴れ着姿
の参列者で充ちあ
ふれそうでした。
式辞をいわれた
当代校長笠原先生
のお声は心なしか
感激ふるるえき
こえました。県教
育委員を代表され、
本校の先輩であり、
校舎改築に殊の外
ご尽力くださいま
した三浦コト様よ
り真心こもったお
慶びのごあいさつ
があり、ついで平
吹後援会長、高橋
同窓会会長、山本
PTA会長の感激
と今後の発展を願
うあいさつがあり
ました。

そしてこの式典を機に、長年に
亘り母校の発展にご努力された平
吹・高橋両会長へ校長先生から感
謝状と記念品をさし上げられ、万
場拍手をおくりました。又この立
派な校舎の完成にたずさわられた
関係各社の方々へ感謝状と記念品
をさし上げお祝いしました。



喜寿の方々 (総会会場にて)

東京支部 総会報告

昭和五十三年度東京支部総会は、五月二十八日(日)十二時半新宿「豪華」で開かれた。年一度の総会とあって、七十名の会員の方々が出席されました。山形からは、川村教頭先生、高橋会長様、校内理事の大宮先生、丸山栄先生(現酒田西高校長)をお迎えして、和やかな雰囲気の中で始められました。校歌斉唱のあと、昨秋急逝された渡辺隆元校長先生はじめこの一年間に逝去された方々に全員が黙禱をささげました。(尚、当日皆様からの御芳志は後日栃木県の先生のお宅にお送りしました。創立八十周年式典を待つ母校の概況報告及び記念総会の御案内をいただきました。壁にはられたポスターでよこばらしい雰囲気となり早速出席の相談のグループも見受けられました。

会食に移ってからはそれぞれそれぞれのテーブルでにぎやかな談笑が続きました。久しぶりの同窓会を楽しんでいただけに、先生方がビールのグラスを持ってまわられると皆様立ち上がった先生方を囲まれ、セラー服の学生時代に戻ったような若々しい笑い声が絶えませんでした。宴もたけなわの頃、佐藤陽子さん(三十六年卒)の箏曲演奏が行われました。場内がシーンとなつてこれから始まるという時に突然隣室で結婚進行曲が鳴り出すというハプニングもありましたが、

素晴らしい演奏は会員の皆様にとってもよろこばしいものでした。会場には交通の便の良い集まりやすい所という制約条件があるため、今回は新宿の中国料理店にしましたが、気楽で、また豪華な気分でも良かったと好評をいただきました。予定時間を越して午後三時半閉会となりました。

ただ、女子師範の同窓会と日が重なりました。師範の先輩諸姉と並びに東京在住の古い先生方の御出席をいただけたのは残念でした。東京支部は、会員が広く一都三県に散らばっていて日頃の交流が少なく、支部としてのまとまりができていないという状態にあります。今回もまた支部長不在のまま総会をむかいました。支部長選出が非常に難航している。で、新支部長が決まるまで出席したくないという方々も出て、当日の出席者が心配されましたが、名古屋から御出席の方もあり、おかげで盛況のうちに終わることができました。当番幹事を代表して本部並びに東京支部の皆様御協力に感謝の意を表します。ととも、支部長不在のまま引き継いだ次期幹事の方々を皆様に盛り立てて下さるよう心からお願ひし、新支部長のもとに一日も早く支部の体制を整うよう祈りながら報告を終らせていただきます。(昭和三十六年卒 小泉弥生記)

三浦 コト様

大正九年高女卒
三浦コト様
大正九年高女卒
現在、教育制度発足以来二十二年間、県教育委員として、県教育行政の振興に寄与なさいました。心から敬意と感謝を申し上げます。

古沢 千代様

大正十一年高女卒
古沢千代様
大正十一年高女卒
昭和五十二年十一月御受章
小学校教諭三十年、退職後は西町教育委員六年、町会議員二期八年、婦人会長十二年、県婦人連盟監事等、学校教育、社会教育に御尽力なさいました御功績により、心からおよろこび申し上げます。



於教育会館 12月23日

西高音楽部全国最高賞十回受賞
五十三年度全国合唱コンクール
全国大会で金賞第一位を得、四十四年以来NHK全国コンクール最優秀賞五回、全国合唱コンクール金賞第一位五回受賞、計十回受賞記念祝賀会を催した。後援会・PTA・同窓会からの出席者多数。

クラス会だより

卒業五十年

「卒業されてから五十年です。お元気で今日の日を迎えられ、本におめでとございます。」とお祝いの言葉を聞いた時、私は心から嬉しいと思いました。昭和二年の春、卒業の喜びと別離の悲しみを共にわちあつて、それぞれの任地に赴いてから五十年、アツという間にすぎたともいえるし、長い長い五十年であったとも思います。先生になる前に私は桃丸にゆい紅い帯を巻いて街を歩いてみました。とお手紙を下された友がいました。あふれるばかりの夢を抱いて、新卒の女教師として出発したのは成人にも達しない十八才何ヶ月のことです。その未成年者が先生と呼ばれ、五十人から六十人の児童の担任として、全責任をせおつてとにかく懸命に歩きはじめています。

そのうち当然の事として結婚、続いて出産育児。まさに嫁、妻、母、そして教師と、一人何役かをこなしながらの多端な毎日、喜びと悲しみ、なげきとうれいの交錯する日々でした。しかも自由主義教育から軍国主義教育への転換、さらに日華事変から太平洋戦争、

つて、文字通り山雲海月の情を共に語りつくしました。よくぞ生きぬいてきた、というのが皆の共通の思いでした。今年もみじ美しい箱根の山を共に歩き、伊豆の海を眺めてとりたての魚や、みかんの味に舌つづみをうちました。

五十年の歩みが、今一つの自信となつて皆の中に生きており、そこから、これからも元気で人生の味をかみしめながら、美しく老いたいのとの願いと心構えができています。私は信じております。(女師昭和二年卒 芳賀 洋子)

万才 十九年度入学生

六月十八日、五十一名の参加と五名の恩師を迎え、三年一度の約束に從つて、第五回目のクラス会を催した。思えば私共は戦前戦後の学制改革の影響をもちに受けた学年であった。個人の意志とは無関係に第一高女と第二高女にふり分けられて焼跡の校舎に入學、卒業も四年あり、五年あり、高三ありとまちまちであった。その間私達は、三年でおおげにす校則に反対し撤回させ、学芸会では少女歌劇まがいの劇をやつて開校以来といわれ、えこひいきをしたといつては先生をつるしあげ、自由が目ざめたといおうか、正義の意気にもえたいといおうか全く学年合同のクラス会を催させる原動力となつたのである。昭和四十年

去る九月九日、午後六時半から県芸術祭参加、嚶鳴同窓会主催で今井倭子さんのリサイタルが、県民会館で開かれました。今井さんは西校を卒業後、桐朋学園大学音楽科で学ばれ、第一回藤原オペラコンクール、第一回ソナーニ国際コンクールのソプラノの部で一位になり、その後、イタリアに渡り、各地のオペラハウスなどで御活躍をなさり、久しぶりの里帰り。私達に本場のオペラの歌曲を聞かせて下さいました。曲はヘンデルの「アタランタ」の歌曲を始め、嚶鳴女声合唱団の武田敬子さんのピアノ伴奏で



卒業50周年記念・於山大(昭52.10)

喜寿のたより

八十周年記念式典と共に、私共の喜寿のお祝に御招待頂きまして、致れりつくせりの御款待に預り、其の上お立派な記念の品まで賜りまして、なんとも御礼の上で申し上げようもなく母の感涙を祈りしつ、ありがたき感謝感激の葉しつ、一日をすこせ感涙まじした事を重ねて厚く御礼申し上げます。又昨日は記念の写真を沢山におとけ下さりまして、さつき日野幹事さんと相談の上クラスの方々へお分け別送申しました。大正七年高女卒 金谷喜久様

大正七年高女卒 金谷喜久様
春の同窓会の時のなつかしい写真たしかに頂きました。ありがとうございました。毎日忙しくてお返事が出来ません。大正七年実科卒 最上ふじ子様
あまりの老年と遠方の為参加出来かね念に存じて...此の度は思いがけなく祝いの御品御贈りにあつたことに嬉しく...明治三十五年卒 小田垣なを様がの協力いただけることになりました。喜びの反面、体力、気力、すべての面で不安はあつた。しかしぶつかり

き有難く嬉しく存じ御礼申上...明治三十九年卒 吉村シゲリ様
「女として、いや人間としての生きがいとは何だったのだろうか?」
親離れの時期を迎えた子を持つ四十代の主婦が、ある日愕然とした思いで自問する。私も人並みに一児の母親、しかも主人の両親と同居する主婦である。このまま老果てていなのだろうか。
二十年前私は独身、赤道アフリカ横断という冒険旅行を経験した。当時は男女平等は名のみで、女が海外に出ることは、罪悪視されたものだ。無事目的を果した時、次は女性だけでニュージールランドへ行こう、と反骨精神と夢を抱いた。そして実現に成功した。
だが、結婚し人の親となつてからは、危険を伴う冒険は、してはならないと、みずから戒めていた。とはいえ、ひそかにチャンスをつかみ、体力、資金づくりを心がけていたことも事実だった。
ある日、かつての仲間から、南米大陸縦断の旅の誘いがあつた。幸いなことに、両親とも健康に恵まれていたので、主人の理解と協力の協力が得られ、十三年ぶりに夢がかなえられることになった。喜びの反面、体力、気力、すべての面で不安はあつた。しかしぶつかり

リサイタル

次々と歌い上げ、その美しい歌声と確かなテクニックで、会場に集まった多勢の同窓会の人達や、音楽愛好家たちを、うっとりさせました。
ステージは情感あふれた柔かな歌声と豊かな声量で、迫力あるものになり、かきりない拍手の中で最後にオペラ嬢々夫人の中の「ある晴れた日に...」をアンコール曲に、幕をとじました。
芸術の秋にふさわしい一夜、上品でたしなみやすい雰囲気の中で開かれた、楽しいリサイタルでした。

アマチュア合唱団としてはじめて文化庁芸術祭に参加しました。
女声合唱組曲「紅花抄」は芳賀秀次郎作詞、服部公一作曲、指揮阿部昌司、伴奏武田敬子、朗読多田恵勇、録音制作NHK山形放送局で、十月二十二日FMステレオで全国放送され、好評を得ました。
山形西高音楽部OG合唱団として四十八年に発足、四十七年卒から五十二年卒の若い世代四十数名により、去る三月には第一回公演が開かれることになりました。これまで、全日本合唱コンクール東北大会で金賞三回、全国大会で銅賞二回を得、活躍しております。

主婦と冒険

小倉 薫子

「女として、いや人間としての生きがいとは何だったのだろうか?」
親離れの時期を迎えた子を持つ四十代の主婦が、ある日愕然とした思いで自問する。私も人並みに一児の母親、しかも主人の両親と同居する主婦である。このまま老果てていなのだろうか。
二十年前私は独身、赤道アフリカ横断という冒険旅行を経験した。当時は男女平等は名のみで、女が海外に出ることは、罪悪視されたものだ。無事目的を果した時、次は女性だけでニュージールランドへ行こう、と反骨精神と夢を抱いた。そして実現に成功した。
だが、結婚し人の親となつてからは、危険を伴う冒険は、してはならないと、みずから戒めていた。とはいえ、ひそかにチャンスをつかみ、体力、資金づくりを心がけていたことも事実だった。
ある日、かつての仲間から、南米大陸縦断の旅の誘いがあつた。幸いなことに、両親とも健康に恵まれていたので、主人の理解と協力の協力が得られ、十三年ぶりに夢がかなえられることになった。喜びの反面、体力、気力、すべての面で不安はあつた。しかしぶつかり

筆者は、昭和二十六年卒。日本山岳会常任理事。
今回の女性四人の三ヶ月に亘る、地中海沿岸から東欧十五ヶ国、二万キロ走破の、取材ドライブ記録は「砂漠のバラ、バルカンのバラ」の題で、集英社より出版されています。



砂漠のオアシスの町 アルジェリア ガルダイア

「紅花抄」 嚶鳴女声合唱団

今回の「紅花抄」は
第一章 「遠い道」
第二章 「花あかり」
第三章 「雪の祭」
第四章 「夕映」
第五章 「伝説」
からなり、エジプト原産の紅花の旅、砂漠を越え、海を渡り、はるばると山形への遠い道を歩いて来た旅から、花を育て摘みながら、そのあかかな色彩をついに、身にまとうすべのなかつた、荒れた手の娘たちの哀歌を、最上川舟唄や「行く末は 誰が肌ふれん 紅の花」の芭蕉の句を織りまぜて、唱いあげられております。

第一回卒業生井場やす様のご永眠をお悼み申し上げます。明治三十三年、はるかな昔に本校を卒業になった好學勉勵の方でした。
以来、享年九十八才まで、長寿の生涯をおえられました。二十代で夫を失なわれたとはいえ、親子、孫と三代に亘り、教育の道一筋という恵まれた温かなご家庭の中で、静かに永眠なされた故人の、長寿と幸福にあやかられますようにと願ひながら、心からご冥福をお祈り申し上げます。(渡辺てる記)

鬼籍簿

Table with 3 columns: Name, Graduation Year, and Address. Includes names like 高橋 ぶん, 佐藤 ちよ, 川合 てう, etc.

「考えつづける女性を求めて」の意識調査から

母校創立八十周年の記念事業の最後として、十年毎の継続研究である同窓生の意識調査を行ないました。昨年三月に皆様の約千四百名の方々に(六世代各々に二〇〇二五〇のアンケート用紙配布)クラス幹事を通してお願いしまし

尚集計の際に基本になるナンバ―記入の不備の為に、集計からはずされたものが一〇〇部近くあり、せつかくのが残念でした。これからはこの集計資料を基にして同窓生の項目による意識調査を十年前との比較、年令別、或いは職業の有無等によって行っていくこととなるわけですが、全体の一応のまとめは三月末までには小冊子として発行し、クラス幹事を通して各クラスに何部かずつお送りする予定です

「望まない」と「わからない」が減ってきている。この二つは全体のTOT前回比であるが単純な結論は下せないが、一つの傾向としては、自分が嫁の立場に居る時と自分が親の立場に居る時とはその考えが逆になっている点で、姑との同居は望まないが、子とは一語に暮らしたいという正直な気持ちがあらわれていると思

Table 1: 同居したい vs 望まない vs 別居したい vs どちらともいえない (前回は) - Data by age group (19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60+)

Table 2: 同居したい vs 望まない vs 別居したい vs どちらともいえない (前回は) - Data by age group (19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60+)

「望まない」と「わからない」が減ってきている。この二つは全体のTOT前回比であるが単純な結論は下せないが、一つの傾向としては、自分が嫁の立場に居る時と自分が親の立場に居る時とはその考えが逆になっている点で、姑との同居は望まないが、子とは一語に暮らしたいという正直な気持ちがあらわれていると思

Table 3: 同居したい vs 望まない vs 別居したい vs どちらともいえない (前回は) - Data by age group (19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60+)

Table 4: 同居したい vs 望まない vs 別居したい vs どちらともいえない (前回は) - Data by age group (19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60+)

う。然し身勝手と思われる正直な気持ちと許しは言えず、特に子供との同居を望む傾向は、核家族生活の見直しとか老人社会に向つての社会的動向のあらわれとしてとらえられないだろうか。今度はこれを図表2と4とで年令別の集計で分析してみよう。やはり想像通り姑との同居を望むのは六十代五十代が多い。六十代五十代の同居を望むといっているのは自分が嫁の立場で言っているのか姑の立場で言っているのか分らないし更にどの世代も姑の考え方、配偶者の有無、自分の夫の気持、周囲の状況などによって決まってくる場合があるので一概には言えないようだ。然しこの数字に表われた所を推察するに六十代は十年前より姑との同居を望む数が〇・七割程多くなっているといふのは、生活経験の結果老人社会のあり方への真摯な動向と理解出来ないだろうか。つまり福祉事業の充実が進み物質的に恵まれて来たことがそのまま老人社会の幸せになるのではなく、物質以上のもの、人間的なつながりを持つ生活を目標とする方向がとつていられる。五十代はどうか。姑との同居を望む数は五割減、そして「望まないがしかたがない」は一・九%、別居したいが〇・六%とそれぞれ増えているのと照応され、更に子供との同居にしても望まないが一・九%と減り、場合によるが二・〇%と増えている数で推測するに五十代は経験してきた問題であるだけに、苦労した姑づとめはやはりもうたくさんだと思ふし、その体験から子供との同居もわが身をふり返つてしなくともいふと考へることが出来る心身の丈夫さを保つていく年代かと思われ。尚五十年代は戦争体験者達なので苦勞に馴らされた年令かなとも考えさせられてくる。三十代四十代を見てみよう。特に姑との同居については「別居したい」という数が十年前より七・七%・二・八%と大分減り、その分「どちらともいえない」が四・九%・七・二%と大巾に増えている。この所が他に比べて著しい変化といえる。「同居したい」も十年前より五・八%・〇・八%と減っているし、この年代は特に姑との同居問題と現実と直面して、理想だけを言つていられない

Table 5: 未・既婚の別 (TOT・前回は) - Data by age group (19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60+)

Table 6: 就職経験の有無 (TOT・前回は) - Data by age group (19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60+)

Table 7: 未・既婚の別 (TOT・前回は) - Data by age group (19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60+)

Table 8: 就職経験の有無 (TOT・前回は) - Data by age group (19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60+)

Table 9: 老後の生活設計について (TOT・前回は) - Data by age group (19, 20-29, 30-39, 40-49, 50-59, 60+)

理想的な同居の在り方を求めて 以上二つの同居の問題からこの集計だけにとどまらず発展的に話し合った事も述べた。各世代に亘つて姑と或いは子供と積極的に同居したいと思つている数があるという点、これは住居の生活の反省に立つてとか、一家に各世代が一語に住むことと、そのままだ人生の多くの問題を実際に体験し学んで行くという(+)の面が話し合われた。例えば最近新聞等でも扱われていた子供の自殺の問題も、老人と同居している場合「死」の尊厳を自らにして知っている。多くの家族によって厳かに一人の人間の終末を悲しみ送られる姿を見れば反対に生の尊厳が強く

生活のスムーズな適応性なども育ちにくいだろう。然し現実には同居したくないという数が多いので、前記の美点や有形・無形の(+)面を育てる意味で、又人間が孤独に淋しい人生を終わらぬ為にも、どんな工夫をしてよき家族生活を維持したらいのか。六十代になって、どんなに頑張つても心身の衰えが来れば誰かに頼らなければならぬ。だからと言って老人ホームに入りたいたいと思ふ人は、図表9に見られるように極めて少なく、やはり結局は子供にみてもらうという傾向が強いのである。ここに丁度、私達編集委員が同じように話し合い納得した新聞記事があったので紹介しよう。昭和53年11月23日(山新紙面より) 嫁・姑うまくやるための十ヶ条 一 嫁・しゅうとめは互いに若さや老化、欲求など相手の心身状況を理解すること。 二 両者はお互いの文化を知り、人生観や家庭観を理解すること。 三 家事の役割分担や家計費の分担をはっきりさせること。 四 途中からの同居は極力避けること。 五 互いに干渉しない時間や部屋などを設定すること。 六 互いに「親しい他人」でよいと割り切ること。 七 互いにいたわり合い、感謝する気持ちを忘れないこと。 八 息子(夫)はよき調停者であること。 九 小じゅうとめは嫁に干渉せず、ときには嫁に感謝の品を贈ること。 十 互いに悪口は他人に告げず専門機関に相談すること。 他に子供に対し親の方は早くからお前に世話になるという意志表示をはっきりしてお互いに信頼感を植へつけることも大切だということなどに着目しました。それから今後の継続研究の成果が待たれ面白だろう等とも話し合

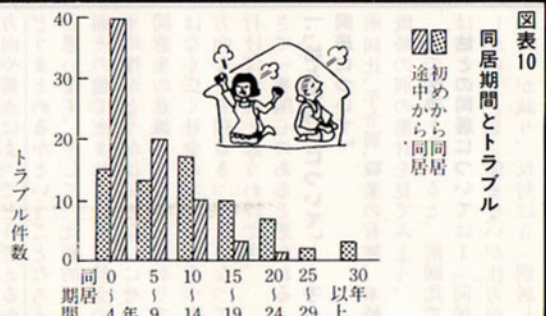
〈年令別・前同比〉

	1.ある		2.ない		0.わからない	
	53年	44年	53年	44年	53年	44年
19才	73.5	73.8	10.6	7.9	15.9	18.3
20-29	58.1	58.9	37.7	32.3	3.2	8.8
30-39	42.4	45.2	44.7	46.4	12.9	8.4
40-49	31.9	34.4	63.3	54.9	4.8	10.7
50-59	27.1	27.7	69.3	65.2	3.6	7.1
60以上	13.3	18.7	80.7	65.3	6.0	16.0

〈TOT〉

	TOT		
	1.ある	2.ない	0.わからない
53年	40.7	51.1	8.2
44年	47.8	41.8	10.4

二、生きがいと悩みごとについて
34あなたはこれまで社会からならぬか形「孤立感」を感じたことがありますか。
右の問いに対する傾向を見てみよう。



自分以外の人に「生活のハリ」を与えていると思うか。
TOTで見ると、十年前より「ない」が多くなり「ある」と「わからない」が減ってきている。全体的には明るく望ましい方向に進んでいて若人ほど孤立感を感じている人が多い。特に十九才は母校の三年生の%であるが、高校生の「孤立感」を感じている。丁度受験に臨んでいる年代であり、又真面目に人間存在の本質についてかかっている意識から生まれてきているのか。悩み多い十九才の感が深い。大変可哀相な感じにもなるが、然し十年前十九才の七三・八%は五三年は二十代になっていて、五三年は二十代は五八・一%と減少、同じように各世代が十年後は孤立感が減少してきている所を見ると、人間社会の生活の中で、多くの連繫を見出しつつあると受けとれる。更に六十代の方は孤立感を感じている数がぐっと少ないのを見ると、何かほっとする思いである。

自分以外の人に「生活のハリ」を与えていると思うか。

	1.いると思う		2.いないと思う		0.わからない	
	53年	44年	53年	44年	53年	44年
19才	20.5	20.6	45.0	35.8	34.5	43.6
20-29	48.4	54.0	16.1	10.5	35.5	35.5
30-39	47.1	61.9	16.5	9.8	36.4	28.3
40-49	64.1	66.4	9.0	7.4	26.9	26.2
50-59	62.9	67.0	10.0	9.8	27.1	23.2
60以上	54.9	50.7	13.4	16.0	31.7	33.3

図表12

	TOT		
	1.いる	2.いない	0.わからない
53年	49.7	19.4	30.9
44年	52.1	15.4	32.5

図表12の41 自分以外の人に「生活のハリ」を与えていると思ふかの数と照応されている。同窓の方々は、社会生活、家庭生活において、自信に満ちて大いに役立っているものと自負し且つ他の人からも認められて活躍している人が多いためと受けとめられる。
三、同窓会について
(1)次の図表は、今年度総会で発表した同窓生の母校存続中の思い出についての図表である。

〈年令別〉

	19才	20-29	30-39	40-49	50-59	60才
クラブ活動	38.5%	58.1%	38.8%	39.4%	23.4%	9.9%
催物(文化祭等)	27.7	22.6	10.6	7.3	0.7	8.6
授業	12.3	38.7	36.5	28.5	41.8	38.3
受験指導	4.6	6.5	18.8	2.4	0.7	3.7
修学旅行	28.5	16.1	22.4	24.2	24.8	46.9

図表13

	19才	20-29	30-39	40-49	50-59	60才
寮生活	0	0	0	4.2	12.1	18.5
勤労奉仕	0	0	1.2	36.4	42.6	0
通学	11.5	19.4	28.2	20.6	19.9	21.0
その他	11.5	6.5	5.9	7.9	11.3	11.2
とくにない	18.5	3.2	9.4	2.4	2.8	8.6

「生活のハリ」を与えていると思ふかの数と照応されている。同窓の方々は、社会生活、家庭生活において、自信に満ちて大いに役立っているものと自負し且つ他の人からも認められて活躍している人が多いためと受けとめられる。
三、同窓会について
(1)次の図表は、今年度総会で発表した同窓生の母校存続中の思い出についての図表である。

十九才より四十代までの方はクラブ活動が一番多い思い出になっていく。次に五十代の方は戦時中のことなので勤労奉仕が圧倒的であった。今となっては忘れられない思い出としてあげられている。六十代の修学旅行も今の若人達の自由な旅など出来なかつた時代なので、どんなに楽しい思い出なのか想像出来る。又十九才を除いた各世代に授業の思い出が最も多く、教室での自由な真理探求

50代1総会について
(1)講演より音楽部生徒の歌を
(2)生徒の文化部発表(演劇・音楽)
(3)もつと気軽に出席されるよう
(4)若い人達の出席を望む
(5)会員の心のつながりに欠ける
(6)総会の通知を会員に行き届かせてほしい。多数の出席を望む
(7)総会の日を日曜以外に
(8)総会の時間短縮、そしてクラス毎の話し合いが出来るように
(9)生徒の文化祭にも招待してほしい
(10)組織的な支店を作ったらい
(11)同窓会名簿は重要宝である
(12)どんな小さなことも知りた
(13)クラス幹事の積極的行動を望む
(14)八十才以上をもっと優遇してほしい
(15)維持費を個別で振替で送りその人々に会費を配布する

60代1若い方々の活躍を期待する
2 維持費を一クラス二千元にして何事ももっと余裕のあるようにしたい
3 各学年クラス幹事が積極性をもち運営してほしい
4 いいお話、美しい音楽、楽しい旅行など合せ考えてほしい
5 同窓会、同窓会、支部総会への出席が楽しみである
6 同窓会役員、事務局へ感謝する

の時間が何にもまして精神的喜びを得られた時だった。時勢の様々な制約をうけていた中で貴重な美しい時間だったのである。
四十代は校舎焼失後の混乱、復興の苦難もあって他の苦勞が偲ばれる数も示している。十九才は現在直面している授業をまだ思い出として処理する余裕がないのではないかと。そして「とくにない」というクールの面がのぞいていて、現在の高校生一面がうかがえる。然し全体的には勉強好きで睡眠合意すること喜びを見出している同窓生のイメージが浮かび出て来る。
(2)同窓会の運営について具体的な意見
60代1若い方々の活躍を期待する
2 維持費を一クラス二千元にして何事ももっと余裕のあるようにしたい
3 各学年クラス幹事が積極性をもち運営してほしい
4 いいお話、美しい音楽、楽しい旅行など合せ考えてほしい
5 同窓会、同窓会、支部総会への出席が楽しみである
6 同窓会役員、事務局へ感謝する

30代1総会について
(1)総会に若い人の参加を望む
(2)若い人達の喜ぶ催物をしたい
(3)音楽部生徒の合唱を聞きたい
(4)総会に一日保育所をもうけてほしい
(5)運営一般
(6)会費の事案の事案など知られていないので連絡を密にして報告してほしい
(7)すばらしい先輩、後輩方との交流がはかれるような機会が欲しい。知らぬ者同志でも参考になる話を種々お聞き出来ると思う。強制的な「小会話会」を開くとか、せつかくの名門校の同窓会

19才1同窓会について在学中のもの
2 同窓会に若い人の出席が少なすぎる
3 皆さん、頑張ってください
4 今後はこの問題を、専任事務担当の同窓生を一定期間とか時間制等でお願ひしたりして一人年五〇〇円の会費を徴集し、会費をその方々に送るような方法を考えつつ、総会の席上提案し、会員の皆さんと相談したいと思つて居る。etc
同窓生意識調査実行委員会名
(各世代の評議員の代表と、本年度総会当番幹事、S五二年十二月の評議員会で決定、〇印は会費の編集委員)

40代1総会について
(1)連絡を会員に行き届らせてほしい
(2)総会の切符が手軽に入手出来るように望む
(3)当番学年があるが張り張り過ぎるくらいがあるが、当番になるのに気が重い
(4)運営一般
(5)会費があるのはいい。会報がほしい
(6)遠い所も連絡を密にして、維持費等もきちんと納めるようにしてほしい
(7)恩師の住所を明確に知りたい
(8)同窓会名簿を末端まで行き届くようにしてほしい
(9)現在のPTA会員の中から役員を選び新時代に対応した同窓会になって欲しい
(10)在校生の音楽部のウイーン派遣ありがとうございませ
(11)私達は統合時代の卒業です。西高入生の南高卒業となつて居ます。女が少なく仲々参加出来ず残念に思つて居ます
(12)同窓会役員、事務局の方々に感謝します。頑張ってください
(13)同窓会に若い人の参加を望む
(14)若い人達の喜ぶ催物をしたい
(15)音楽部生徒の合唱を聞きたい
(16)総会に一日保育所をもうけてほしい
(17)運営一般
(18)会費の事案の事案など知られていないので連絡を密にして報告してほしい
(19)すばらしい先輩、後輩方との交流がはかれるような機会が欲しい。知らぬ者同志でも参考になる話を種々お聞き出来ると思う。強制的な「小会話会」を開くとか、せつかくの名門校の同窓会

です。お互いに一生勉強し合ひ、向上したいものです。「型」にはまった形式的なものでなく有意義な「行なつてよかった」という同窓会に発展されますことを期待します。
(2)それぞれ地域で同窓生が集まり合ひさまざまな話の出来るサークルとかグループが出来たらよいと思ひます。たとえば西高七日町グループとか。そして皆で話し合ったことを広めて、同窓会の運営に意見を反映させて行く。このほうがよいです。
(3)今回のアンケート調査について、まず日数が少いこととクラス幹事から郵送する切手代は同窓会で負担すべきではないでしょうか。
(4)会報をいただきとてほしい
(5)役員、当番学年、事務局の方に感謝します。一層頑張ってください
(6)現在は校務について先生方の全くのサービスであつて、しかも同窓職員は少なく人数の確約も出来ない
(7)今後はこの問題を、専任事務担当の同窓生を一定期間とか時間制等でお願ひしたりして一人年五〇〇円の会費を徴集し、会費をその方々に送るような方法を考えつつ、総会の席上提案し、会員の皆さんと相談したいと思つて居る。etc
同窓生意識調査実行委員会名
(各世代の評議員の代表と、本年度総会当番幹事、S五二年十二月の評議員会で決定、〇印は会費の編集委員)

20代1確実な運営をなさっている
2 総会に若い人の出席が少なすぎる
3 皆さん、頑張ってください
4 今後はこの問題を、専任事務担当の同窓生を一定期間とか時間制等でお願ひしたりして一人年五〇〇円の会費を徴集し、会費をその方々に送るような方法を考えつつ、総会の席上提案し、会員の皆さんと相談したいと思つて居る。etc
同窓生意識調査実行委員会名
(各世代の評議員の代表と、本年度総会当番幹事、S五二年十二月の評議員会で決定、〇印は会費の編集委員)

30代1総会について
(1)総会に若い人の参加を望む
(2)若い人達の喜ぶ催物をしたい
(3)音楽部生徒の合唱を聞きたい
(4)総会に一日保育所をもうけてほしい
(5)運営一般
(6)会費の事案の事案など知られていないので連絡を密にして報告してほしい
(7)すばらしい先輩、後輩方との交流がはかれるような機会が欲しい。知らぬ者同志でも参考になる話を種々お聞き出来ると思う。強制的な「小会話会」を開くとか、せつかくの名門校の同窓会

40代1総会について
(1)連絡を会員に行き届らせてほしい
(2)総会の切符が手軽に入手出来るように望む
(3)当番学年があるが張り張り過ぎるくらいがあるが、当番になるのに気が重い
(4)運営一般
(5)会費があるのはいい。会報がほしい
(6)遠い所も連絡を密にして、維持費等もきちんと納めるようにしてほしい
(7)恩師の住所を明確に知りたい
(8)同窓会名簿を末端まで行き届くようにしてほしい
(9)現在のPTA会員の中から役員を選び新時代に対応した同窓会になって欲しい
(10)在校生の音楽部のウイーン派遣ありがとうございませ
(11)私達は統合時代の卒業です。西高入生の南高卒業となつて居ます。女が少なく仲々参加出来ず残念に思つて居ます
(12)同窓会役員、事務局の方々に感謝します。頑張ってください
(13)同窓会に若い人の参加を望む
(14)若い人達の喜ぶ催物をしたい
(15)音楽部生徒の合唱を聞きたい
(16)総会に一日保育所をもうけてほしい
(17)運営一般
(18)会費の事案の事案など知られていないので連絡を密にして報告してほしい
(19)すばらしい先輩、後輩方との交流がはかれるような機会が欲しい。知らぬ者同志でも参考になる話を種々お聞き出来ると思う。強制的な「小会話会」を開くとか、せつかくの名門校の同窓会

です。お互いに一生勉強し合ひ、向上したいものです。「型」にはまった形式的なものでなく有意義な「行なつてよかった」という同窓会に発展されますことを期待します。
(2)それぞれ地域で同窓生が集まり合ひさまざまな話の出来るサークルとかグループが出来たらよいと思ひます。たとえば西高七日町グループとか。そして皆で話し合ったことを広めて、同窓会の運営に意見を反映させて行く。このほうがよいです。
(3)今回のアンケート調査について、まず日数が少いこととクラス幹事から郵送する切手代は同窓会で負担すべきではないでしょうか。
(4)会報をいただきとてほしい
(5)役員、当番学年、事務局の方に感謝します。一層頑張ってください
(6)現在は校務について先生方の全くのサービスであつて、しかも同窓職員は少なく人数の確約も出来ない
(7)今後はこの問題を、専任事務担当の同窓生を一定期間とか時間制等でお願ひしたりして一人年五〇〇円の会費を徴集し、会費をその方々に送るような方法を考えつつ、総会の席上提案し、会員の皆さんと相談したいと思つて居る。etc
同窓生意識調査実行委員会名
(各世代の評議員の代表と、本年度総会当番幹事、S五二年十二月の評議員会で決定、〇印は会費の編集委員)

20代0井口登美子 遠藤 静子
小原 直子 安食美保子
(文責 大宮文子)

30代(本年度総会当番幹事)
米本美智子 木村 洋子
尾関 麗子 齋藤 亮子
佐藤 紀子 佐藤 臣子
小笠原 睦子 川崎 礼子
40代0小松 テル子 飯沢 愛子
50代 中村 チエ 相沢 栄
大波 ヨシ 長嶋 喜代子
60代 高橋 政 渡辺 みち
大波 政 後藤 竹子
70代 渡辺 春 三浦 コト
80代 渡辺 政 渡辺 みち

80周年記念の年でしたが、特に当番学年のご協力を得て、無事に記念式典、祝賀会そして総会と終ることが出来、本当にありがとうございました。
同窓会総会当番学年予定
昭和五十四年度 S18・19・20年卒
昭和五十五年 S37・38年卒

二面よりつづく
支部名 支部長名
東京 人選中
米沢 大15師卒 大沼 こう
蔵王 大13卒 岡崎さだ江
天童 昭2卒 林 やす
寒河江 大15卒 鈴木 重
長崎 昭13卒 石沢 ツネ
東根 昭10卒 佐藤とくよ

野口圭子さんがおやめになり、安食美保子さんが入られ、又栗野先生の代わりに阿部秀先生が入られ、次の方で事務局の仕事をして居ります。よろしくお願ひします。
阿部秀先生(室崎幸雄(芸))
大宮文子(国)小原直子(英)
遠藤静子(司書)安食美保子(実助)

事務局長のメンバーは会田吉子さん、野口圭子さんがおやめになり、安食美保子さんが入られ、又栗野先生の代わりに阿部秀先生が入られ、次の方で事務局の仕事をして居ります。よろしくお願ひします。
阿部秀先生(室崎幸雄(芸))
大宮文子(国)小原直子(英)
遠藤静子(司書)安食美保子(実助)

事務局長だより
八十周年記念の年でしたが、特に当番学年のご協力を得て、無事に記念式典、祝賀会そして総会と終ることが出来、本当にありがとうございました。
同窓会総会当番学年予定
昭和五十四年度 S18・19・20年卒
昭和五十五年 S37・38年卒

支部名 支部長名
東京 人選中
米沢 大15師卒 大沼 こう
蔵王 大13卒 岡崎さだ江
天童 昭2卒 林 やす
寒河江 大15卒 鈴木 重
長崎 昭13卒 石沢 ツネ
東根 昭10卒 佐藤とくよ

母校のようす

職員動向

石井達雄先生(国語) 山形南高校 教頭
草壁喜一郎先生(国語) 寒河江工業高校
結城朋彦先生(数学) 山形南高校
岸 仁一先生(保体) 山形南高校
横尾哲郎先生(理科) 楯岡高校
野口圭子先生(実) 御退職
転入
武田 誠先生(国語) 山形工業高校
豊岡敏子先生(国語) 谷地高校
伊藤貞夫先生(保体) 教育庁
日野健一先生(理科) 大石田高校
佐藤真夫先生(数学) 天童高校
安食美保子先生(実) 新採
岩田栄蔵先生(体育常勤講師) 県体育館

80年記念誌発行

数々の80周年記念事業の中で、比較的味ながら、淡い光を放つ存在、それが80周年記念誌です。校内外から寄せられた70余編の手記を元に、本校の八名の先生方ら成る編集委員会によって編まれたものです。表紙は嚶鳴カラーのえんじと白でまとめられ、巻頭には現在の西高がグラビアで紹介されるなどスマートな装丁です。80年と一口で言えば簡単ですが同窓会第一回生が既に95才になられ、入会間もない同窓生にとつては、祖母や曾祖母程の大先輩に恵まれている訳です、同窓生総数一万七千名、この層の厚さが80年の歳月の重みを示しているのです。多くの旧職員や同窓生の方々の思いを出して、西高の来し方を一つの記録に止めようという編集目標もそこから出発している様に思われます。年代を通り並べられた手記一つ一つも通って一遍でなくそれぞれに光景が眼に見え、筆で筆者の御人柄が感じられます。読者と同年代の手記を読んでも共感を覚えるでしょうし、又全く知らない先輩や後輩の生活ぶりを読んでも違った感慨が湧いてくるでしょう。この一冊が正に同じ80年間の日本の歴史の一面を伝えているこ

嚶鳴祭



大好評のヒップヒップフレダンス

この催しも10回目。今年度は9月16・17日日本校を会場に行われた創立80周年というところで、女関に特製のアーチも立てられ、華やかさを添えていた。昭和42年頃「文化部の活動にも発表の場を」という主旨で、全く白紙の状態から出発した。文化発表会、を知る者には、この成長ぶりは驚きだろう。今や発表展示会の要素に加えて、全校生徒のレクリエーション



八人立の射場

弓道場

「八十周年記念の年に是非待望久しい弓道場」との、諸先輩、関係者各位の熱意が実り、当初テニスコートの計画が変更され、末広町野鳴学校跡地に、五十三年九月完成を見た弓道場は、「県立高等学校共用施設弓道場」と言う正式名称はあるものの、現在には管理面のみならず、利用面に於いても他校への開放の計画がなく、西校専用の感がある。工費九八三万円、五十三年九月十九日当校への引継ぎが成り、同二十六日、県弓道連盟会長、役員、有段者の方々の御臨席の下、古式豊かに弓道場開きが催されました。射場と射場の間には芝生を配し、照明設備を備え、更に諸先輩の御好意による時計や巻巻の寄贈もあり、県下随一の立派な施設となりました。

進路状況について

Table with columns for school type (National, Public, Private), year (51, 52, 53), and number of students. Includes a sub-table for '進学者(実数)の推移'.

Table showing '進路状況 (合格者数)' for National 1st year, with columns for school type and number of students.

Table showing '進路状況 (合格者数)' for National 2nd year, with columns for school type and number of students.

Table showing '進路状況 (合格者数)' for Public schools, with columns for school type and number of students.

Table showing '進路状況 (合格者数)' for Private schools, with columns for school type and number of students.

Table showing '就職状況' with columns for school type and number of students.

Table showing '就職状況' with columns for school type and number of students.

部活動



高松宮同妃両殿下御前演奏(昭53. 8)

高く澄んだハーモニイと曲に対する技の表現力とで、全日本合唱コンクール全国大会五度目の金賞に輝く西高音楽部の今年の活躍の跡を辿ってみると、定期演奏会 六月二十三日 第二回高等学校芸術祭 合唱の部 NHK合唱コンクール 県予選 九月十六日 天童東北大会 十月十日 全国大会 十月十五日 四位 全日本合唱コンクール 県予選 九月二十四日 山形東北大会 十月二十二日 盛岡全国大会 十一月二十二日 函館

水泳部 昭和四十五年から四十八年代の黄金時代にもう一步、という所で鶴北に惜敗、二位に甘んじています。水泳は非常に激しい運動であ

音楽部

り、特に夏のシーズン中は、試合数も多く勉強との両立に奮戦の時期でもありますが、しかし、試合ともなると、特にリレー等では、お互いに頑張り合って四人の力以上のものが出せると言う、少数精鋭の頼もしい部です。部員数 三年3、二年2、一年3 予算 五八、九六〇円 合宿 年二回 春休み 七月初 五月連休明けより九月末 陸上トレーニング、温水プール利用訓練等。 53年度県高校総体 総合二位 東北水泳大会を経てインターハイに出場した種目 200M・400M個人メドレー 奥山 浩子 400Mリレー 計三種目で、全員インターハイ出場を果たす 国体予選 総合 二位 奥山浩子さんは、200M個人メドレー、400Mリレーの県代表として国体出場 顧問 山川先生

演劇部 「演劇は総合芸術である。」という信条の下、定期公演、市内高校合同演劇祭、嚶鳴祭にと活躍している。顧問は阿部秀面先生と森谷正一先生、芝居好きの面々である。最近の公演を辿ってみよう。 52年度県高校芸術祭参加 町井陽子「防人遺聞」 87回定期公演(以下53年度) 井上びさし「11びきのネコ」 嚶鳴祭及び市内高校合同演劇祭参加 内木文英「ある死神の話」 中でも「11びきのネコ」はコメディータッチのミュージカル。作曲スタッフ、キャストと部員総出で取り組んだ物だ。偶然に天童商高中央高も同じ作品で、各々特徴あ

陸上競技部



53年度定演「11びきのネコ」の一コマ

嘗て柴田タカ選手をオリンピックに送り出した我が陸上部は、なお健在である。部員ゼロという時期もあったが、10年前頃から高校総体山形県大会へも出場している。51年度では、400M齋藤知子さん、走り高跳び大沼ひとみさんがインターハイ長野大会に、又100M加藤敦子さんが東北大会に、52年度は400M佐藤晶子さん、5種土田美紀さんが東北大会に勝ち進んだ。53年度は全国大会こそ出場できなかったが、400M、100Mハードル、5種、砲丸投げと4種目4名が東北大会に出場した。 春から秋のシーズン中は陸上競技場に通っての練習。年2回の合宿では、日本海砂浜で一日20kmランニングをするなど、顧問の渡部昭二郎先生の下でトレーニングに励んでいる。卒業後も大学で競技を続ける人が毎年二、三名いるという。但し高校生としてはあくまで学業優先。この原則はどのクラブ活動にも言えることだろう。本校は比較的個人種目に強くチーム力不足の傾向。今各種目万遍無く選手が育っているのは是非インターハイに出場してほしい。」とは顧問の渡部先生の弁。

弓道部



インターハイ授賞式風景

本年度インターハイ個人の部で第二位の成績を挙げた、弓道部の足跡から紹介しましょう。 昭和8年 弓道部設立 昭和12年 明治神宮大会(現在のインターハイ)に出場し活躍 昭和43年度 愛好会発足 昭和44年度 弓道部再発足 昭和52年度 山形地区新人大会 団体一位 昭和53年度 山形市長杯弓道大会 団体一位 村山地区総体 団体一位 県高校総体 団体四位 武田恵理子さんは、個人二位でインターハイ出場 インターハイ 個人二位 部員数 三年11、二年6、一年11 予算 五九、三五〇円 指導 上級生、先輩、林コーチ 練習 毎日二、三時間 全国優勝の経験を持つ庄内勢に苦手を喫したが、捲土重来、インターハイに団体出場できるチーム造りを目指して、日夜精進を重ねています。 顧問 須藤先生 岩田先生



陸上競技 53年度インターハイで

会務報告

昭和52年12月3日(土)53年度總會... 昭和53年1月14日(日)編集委員... 昭和53年1月15日(日)編集委員...

昭和五十三年度 会費納入状況

Table with columns for member name, amount, and status. Includes names like 昭11(高女), 昭12(高女), etc.

Table for 昭和52年度決算 (Fiscal Year 52 Summary). Columns: 項目 (Item), 当初予算額 (Initial Budget), 決算額 (Final Amount), 残額 (Residual), 適要 (Remarks).

Table for 昭和53年度予算 (Fiscal Year 53 Budget). Columns: 項目 (Item), 予算額 (Budget), 前年度比 (Previous Year Ratio), 適要 (Remarks).

Table for 昭和54年度予算 (Fiscal Year 54 Budget). Columns: 項目 (Item), 予算額 (Budget), 前年度比 (Previous Year Ratio), 適要 (Remarks).

Table for 嚶鳴同窓会評議員氏名及び役割 (Members and Roles of the Alumni Association). Columns: 役名 (Role), 氏名 (Name), 卒年回 (Graduation Year), 役割 (Role).

Table for 嚶鳴同窓会評議員氏名及び役割 (Members and Roles of the Alumni Association). Columns: 役名 (Role), 氏名 (Name), 卒年回 (Graduation Year), 役割 (Role).

編集後記 (Editorial Afterword). Text by 井口登美子 (Tomoko Inokuchi) regarding the 53rd anniversary special issue.

Text block containing various notices, announcements, and correspondence from members, including mentions of 井口登美子 and 昭三三卒.